

PC カンファレンス北海道 2021 報告

【開催概要】

テ ー マ：コロナ禍を共有するアジアの教育

開 催 形 態：オンライン <https://ciec.hokkaido.jp>

開 催 期 日：2021 年 11 月 27 日(土)

・特別講演 … 11 月 27 日(土) 10:35～12:00

・分科会発表 … 11 月 27 日(土) 13:00～16:05

主 催：PC カンファレンス北海道 2021 実行委員会

共 催：CIEC コンピュータ利用教育学会・全国大学生協連合会北海道ブロック

司 会：森 夏節（酪農学園大学）

分科会座長：曾我聡起（公立千歳科学技術大学）、石谷 正（北海道霧多布高等学校）

参加者数：63 名

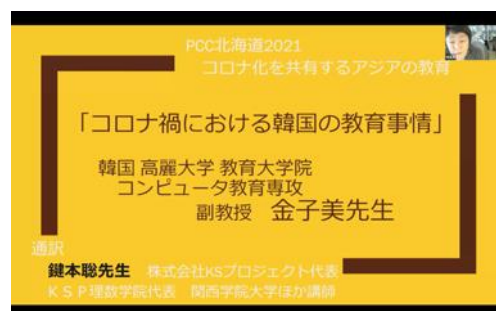
参加料：無料 ※論文集 1,000 円

【プログラム】

10:30 - 10:35 開会式

10:35 - 12:00 特別講演（Zoom ウェビナー）

13:00 - 16:05 分科会発表（Zoom ミーティング）



【開催報告】

例年 PC カンファレンス北海道（以下、PCCH と略）は、札幌市内及びその近郊と道内各地の大学を交互に会場として開催してきた。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮してオンラインで開催した。本年度も収束の見通しが立たなかったため、オンラインでの開催を決定し、主に Zoom によるオンライン会議と Slack で準備を進め、一度も対面の会議を行わずに開催を迎えた。

昨年は、発表をオンデマンド方式で行い、質疑応答をリアルタイムで行った分科会は、質疑応答が活発ではなかったという反省を踏まえリアルタイムでの発表に変更した。本年度も PCCH2021 特設 Moodle サイト (<https://ciec.hokkaido.jp>) で、参加登録者のみ発表論文を閲覧できるというセキュアな環境で行なった。発表件数は 9 件で、うち学生の発表は 4 件であった。

特別講演は大韓民国と繋いで Zoom のウェビナー形式で開催した。登壇者を含め、38 名の参加があった。

特別講演

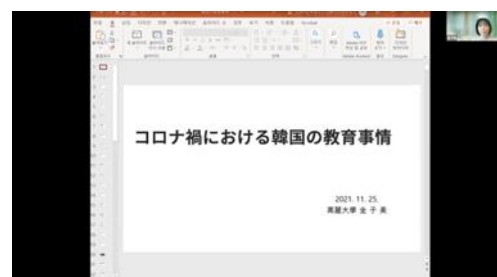
演 題：「コロナ禍における韓国の教育事情」

講演者：金子美 氏（高麗大学）

共 催：国際活動委員会

通 訳：鍵本聡 氏（KSP 理数学院/KSP コリア学院）

まず、高麗大学校の昨年度から今日に至るまでの取り組みについて詳細な報告があった。リアルタイムオンライン講義は、3 つのプラットフォーム（Collaborate、KAFE、YouTube）から選択可能で、



必ず録画を行うことが求められており、録画した講義のプラットフォームとしては、CommonsとYouTube（どちらもBlackboardと連動）が使用されたとのこと。さらに、授業の基準や聴講生への対応、出席確認方法、著作権問題、実際の教員の操作手順などの報告があった。現在は他の大学も含め様々な方法を通じてオンラインに慣れてきている状況とのこと。

次に小中高校生のオンライン学習支援の報告があった。KERIS（韓国教育学術情報院）が運営している様々なプラットフォームが提供する具体的なサービスについて、教師支援の「EDUNET」、「ITDA」、「知識セムト」、学生学習支援の「e学習の場」、「デジタル教科書」、クラス支援の「ウィドゥラン」の詳細な説明があった。現在は対面授業がおこなわれているとのこと。

質疑応答では参加者からウェビナーのQ&A機能やチャットを使って質問を募り、講演者から回答してもらうなど双方向でのやり取りが活発に行われた。

分科会発表

分科会は9件に発表があり、発表15分間、質疑応答3分間で行われた。事後のアンケートでは、質疑応答の時間をより長くするべき、チャットを活用すべきとの指摘があった。

学生プレゼンテーションスキル賞は、公立千歳科学技術大学理工学部情報システム工学科の滝見拓夢さん「モチベーショングラフによる感情分析を用いた自己分析支援ツールの開発と提案」に決定した。



	Collaborate	KAFE	Youtube
接続方法	Blackboard ログインの後[コース]リアルタイム講義室	KAFE Webinar ログイン[Webinar]-[New seminar]	Youtube Live グーグルアカウント [リアルタイムストリーミングの開始]
受講人数	200人可能 200人以上は大型セッションの追加作成及びサポート	200人可能	制限無し
機能	リアルタイムストリーミング、録画	リアルタイムストリーミング、録画	リアルタイムストリーミング、録画
長所	Blackboard コースの機能の使用	外部クラウド基盤のサービスで安定的	外部クラウド基盤のサービスで安定的
短所	オーストラリアのデータセンターサービスで一部遅延	講義の前Seminar roomの開設必要	講義資料のアップロード不可

回数	時期	内容
1次	2020.1学期(2020年3月始まり)	開講後、2週間以上オンライン講義必須
2次延長	2020.03.31~05.04 (中間テストの期間まで)	全国の小中高校及び特別支援学校の開講の追加延期 高麗大もオンライン授業の延長 (原則的に対面禁止)
3次	2020.1学期の全体オンライン講義の開講の申請受付	希望する教授に限りオンライン講義開講の審議要請書の提出
4次	2020.04.02.授業目的の著作物の利用及び注意事項の案内(教授者用)	遠隔授業の経験がない教授がオンライン授業の資料を製作する際、使用可能な最小限の許容範囲、適用除外などの案内(38ページ)
5次	2020.05.04以後の授業の計画	政府の防疫指針によって最終決定
6次	2020.2学期の始まり	
.....	
現在	2021.2学期(with COVID 19)	選択的オフラインの授業の実施



謝辞

本カンファレンスの開催にあたり、ご協賛いただいた沖電気工業株式会社、株式会社富士通パーソナルズ、株式会社トレミール、合同会社三玄舎、配信会場および機材提供でご協力いただいた酪農学園大学、また特別講演にご協力いただいた国際活動委員会に感謝申し上げます。

文責：CIEC 北海道支部長 高瀬敏樹（市立札幌旭丘高等学校）